



絵本を通して楽しく子育て

赤ちゃんの体の成長には母乳やミルクが必要なように、赤ちゃんのことばと心を育むためには、あたたかなぬくもりの中で優しく語り合う時間が大切です。絵本を開くとそこには絵があり、リズムのあることばがあふれ、赤ちゃんに語りかける要素がたくさんつまっています。絵本を通して楽しいひとときを過ごしましょう。

絵本を読むときのポイント

- 絵を指さしてやさしく声かけ
- 目と目を合わせてアイコンタクト
- 肌と肌を合わせてスキンシップ
- 読む人自身が楽しんで
- いつでも どこでも 好きなところで



足利市立図書館や子育て支援センターでは、定期的に絵本の読み聞かせ等のイベントを実施しています。詳しくはそれぞれの窓口へお問い合わせください。

会場	連絡先
足利市立図書館	0284-41-8881
さいこう子育て支援センター	0284-22-4460
にし子育て支援センター	0284-62-1001
やまがわ子育て支援センター	0284-42-0900

赤ちゃんの絵本の楽しみ方



0～3 か月児

新生児の視力はぼんやりしていて色はあまり鮮やかではありません。それに対し耳はお腹の中にいるときから聞こえており、周りの音を注意深く聞いていることが分かっています。この時期の赤ちゃんはリズムのある言葉に耳を傾け、絵や読み手の顔をじっと見つめたりします。この時期の赤ちゃんなりの反応に気づき、ひとつひとつ語りかけてあげましょう。

4～6 か月児

この頃には色や輪郭の見分けが付き、180度の追視ができるようになります。赤ちゃんなりのおしゃべりも始まり、絵本を読むと「アーウー」と声を出して笑うようになります。そんな時は読み手からも「そうだね、楽しいね」などと語りかけると赤ちゃんもとても喜びます。

7～9 か月児

寝返り、お座り、ハイハイができるようになる時期です。また、手あたり次第さわったりなめたりすることで、世界を広げていきます。絵本にも興味を持つようになり、つかんでなめたり、落としてみたり、ページをめくったりします。読むことだけでなく、それらも絵本の楽しみ方のひとつです。

10～12 か月児

この時期は立って歩き、「マンマン」「アウアウ」などの『喃語』が盛んになります。絵本に描かれているものが理解でき、指差しをするようになります。赤ちゃんの気持ちを代弁しながら、「ワンワンいるね」「おいしそうだね」など赤ちゃんが指さしたものに反応してあげることがとても大切です。

**「本を読む (read)」のではなく
「分かち合う (share)」が大切です**